

# 先人の英知を新しい「洞爺湖町」へ 継承・発展



虻田町長 長崎良夫

**内** 浦湾、洞爺湖、有珠山と、海と湖と山に囲まれた豊かな自然に恵まれ、農・漁業と観光を中心に発展してきました虻田町は、平成18年3月26日をもって閉町し、同27日より新生「洞爺湖町」として、出発する

ことになりました。

この1年有余にわたる洞爺村との合併協議に際しまして、町民の皆さんには、深いご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

虻田町は、アイヌの人たちがアイヌモシリと呼んだこの北海道に、和人が定住するようになる300年ほど前にその萌芽を見てとることができ、寛政12年（1800年）の和人村田卯五郎の定住から数えても206年を刻んできました。

明治に入ると、明治13年に、虻田郡各村戸町役場が設置さ

れ、明治35年には2級町村制の

公布にともなうて、虻田村・弁辺村組合役場が置かれて、自治制に基づく自治体となりました。そして町となったのは、昭和13年の二級町村制施行の年です。洞爺村が虻田村から分村したのが、大正9年のことでした。

このように自治制が施行されてから今日まで、100有余年。幾度も襲った有珠山噴火と災禍からの復興。農漁業、観光業振興に福祉の充実、教育文化の向上など、虻田町は諸先輩方の絶間ないご努力によって大きく発展してきました。あらためて、

これまでの虻田町の発展に尽力いただいた、先人の方々に對して深い敬意と感謝を申し上げます。

私は、新町になろうとも、先人のこれまでのご努力を無駄にすることなく、新町の町民が一体となり継承していくものと確信しています。虻田町は閉じますが、町民の皆さんには引き続き、新しい「洞爺湖町」発展のためご尽力いただきますようお願い申し上げます、閉町の挨拶とします。